

# 園長だより

No. 13

「あらゆることを想像(想定)して」

園長 小林 淳一

9月21日(水)に父母の会主催によるアソカ・和光幼稚園合同研修会がありました。講師は、危機管理アドバイザー国崎 信江先生で「家庭における防災対策」というテーマで話していただきました。

先生は、「一時的な感情に終わることなく継続して防災対策を考えてきたのは『これから私たちを襲う地震が何もしないで生き残れるほど甘くない』ことを知っているとともに、自分の命に代えても守りたい存在があったからだと思います。大切な人を失って後悔する前にできるだけことはしたい、そんな思いから女性として、母としての視点で家庭を守るための防災対策を考えてきました。」と述べています。

参加したお母様に感想を書いていたいただきましたのでご紹介いたします。

## ○「家庭内流通備蓄」

先生のお話を聞くことができ本当に良かった。ここ数年、様々な大震災が起こる中、どこか人ごとのような気でいた私は気が引き締まる思いがした。

防災と聞くと「備品を備えること」と思っていたが、まず一番大切なことは、「家にいれば大丈夫」という家作りをすることだった。

- ・高い家具は固定することはもちろん、高いところの収納内容も考え、飛び出さない工夫をすること。
- ・食器棚にすべり止めシートを敷くこと
- ・家電やテーブルを固定すること。
- ・家の中のインテリア(写真立て)なども実際に落ちてきたら、また倒れた時を想定し配置することなど。

正直あまり考えていなかった。お話を聞きながら我が家を思い出し、だめなことばかりだな…と思った。

小学生の子どもたちには、改めて通学路の見直し災害時のことなど話し合った。大人も子どもたちも「災害が来るかも知れない」そんな気持ちをもつだけでも違うのではないかと思った。

備品については、改めて用意する前に、普段食べているものを少しずつ食べて補充すること。「家庭内流通備蓄を心がける」ことを教わった。

そして何よりも子どもを守るための応急手当と知識を身につけること。これらは、そのような機会や研修などで積極的に身につけていくべきことだと思った。今回お話を聞くことができて本当によかった。防災の大切さを改めて認識することができた。

#### ○「写真立て一枚が」

家に飾ってある写真立て一枚が突然の大地震の時に子どもにとって危険で大けがの元になるという現実にあった話を聞き、怖くなった。子どもにとって家を安全な場所にすること、そして小さい頃からの防災教育が大切なことだと改めて考えさせられた。

#### ○「子供、家族を守るため」

「家庭における防災対策」我が家では、3.11以降漠然と家具の固定、避難用品の設置、三日分ぐらいの備蓄をしているから大丈夫！という勝手な思い込みと何とかなるかなと…という考えでいた。

しかし、先生の講演では、最初に阪神淡路大震災の映像から始まり、実際、家においてあるものが凶器となり、子どもが大けがをしてしまった事例など正直胸が詰まる思いと、認識の甘さ、このままでは我が子、自分の命も守ることができないことを痛感した。近いうちに起こりうる直下型地震に備えて子供、家族を守るためにも、今日から家の中の物、家具の固定、整理など少し危機感を持っていきたいと思った。

そして、このような機会を作っていただき参加できたことを感謝している。

#### ○「家族と話すこと」

災害時、自分の命を犠牲にしてでも子供を守ると考えるのは間違いだ。残された子供は、その後の人生を自分のせいで親は死んでしまった。あのとき「お母さん」と呼ばなければ、今、お母さんは生きていたかもしれないと後悔しながら生きることになる。という、衝撃的な話から講演は始まった。

防災グッズを揃える、食品を備蓄することももちろん大切だが、その前に怪我をしない死なないことが前提で、そのための家作りをする必要がある。家具を固定する、重たいものは、天袋や棚の上には置かない。そしておいてあるだけの物は大地震の際、全て「飛ぶ」という意識をして、もう一度家の中を見る。あらゆることを想像(想定)して、そしてたくさん家族と話すことが大切なんだと強く思う講演会だった。